

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in 白鷗大学（意見募集） 実施結果

1	募集期間	令和3(2021)年11月22日(月)～12月8日(水)
2	募集方法	栃木県電子申請システム（専用フォーム）による意見募集
3	回答者	白鷗大学の学生 134名
4	意見数	164件



いただいた意見の内訳

No.	分野	項目	件数
1	地方分権・行財政改革	県政運営	7
		ふるさと納税	2
2	安全・安心な地域社会	交通安全	5
		防犯	3
		防災	2
3	環境	循環型社会・環境保全	2
4	少子化・子育て・男女共同参画	結婚・子育て支援	3
		性の多様性	2
5	高齢者対策・医療・福祉	医療・健康	4
6	産業の振興・雇用	観光の振興・PR	20
		産業の振興・雇用	12
		農業の振興	4
		外国人の支援	2
		商業施設	4
7	道路・河川・公園等の整備	公共交通の整備	16
		通学路等の整備	7
8	教育・文化・スポーツ	教育・文化	4
		スポーツ振興	2
9	とちぎブランド・地域づくり	とちぎの魅力・PR	24
		移住定住	10
		地域づくり	16
10	その他	広聴広報	11
		その他	2
計			164

意見の多かった項目

1	とちぎの魅力・PR	24件
2	観光の振興・PR	20件
3	地域づくり	16件
3	公共交通の整備	16件
5	産業の振興・雇用	12件
6	広報広聴	11件
7	移住定住	10件
8	県政運営	7件
8	通学路等の整備	7件
10	交通安全	5件

- 意見の多かった項目について、主な意見・提案と、県の取組や考え方を、2～7ページに掲載しています。
- 今回の意見募集では、(1)栃木県のイメージ、(2)栃木県の課題、(3)県政への要望(10項目からの選択)についてもご協力をいただきました。結果については、8ページ以降にまとめて掲載しています。

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in白鷗大学（意見募集） 主な意見・提案と、県の取組や考え方

区分	大学生版	募集期間	令和3(2021)年11月22日(月)～12月8日(水)
----	------	------	------------------------------

No.	項目	件数	主な意見・提案	県の取組や考え方	関係課名(担当)
1	とちぎの魅力・PRについて	24	<p>○情報発信力が弱いので、積極的に情報を発信してはどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に目につくような媒体でアピールする（SNSやYouTubeなど）、SNSで「バズる」ことを意識して情報発信する、県内の観光スポットや日常を8K動画で紹介する、県が発行する掲示物やポスターのデザインは古臭いので流行のデザインで魅力を伝える、宇都宮駅や小山駅の壁で栃木県を大胆にアピールする（いちごと餃子で埋め尽くすなど）など ・もともとある栃木県の特徴を活かしていくべき ・とちぎのみんなで元気に盛り上げられるようなイベント、かき氷フェスタ、北関東3県合同の「祭り」イベントを提案する ・新幹線はやぶさ号、こまち号の宇都宮駅停車を再度働きかけてはどうか ・日光は知っているも栃木県を知っている人が少ない、いちごと餃子以外に伝わらない ・観光地等の維持のための取組を公表してイメージアップを図ってはどうか ・他県への情報発信に力を入れる、西日本での知名度を上げる ・栃木県民が地元で魅力を感じることが第一優先、生まれ育った栃木県を自信を持って誇れる県にしたい 	<p>本県の特徴・実力を国内外に効果的に発信するためには、進展するデジタル社会に適した情報発信が不可欠であると考えています。このため、県民、特に若い女性のInstagramでの積極的な情報発信を促すための「#（ハッシュタグ）とちぎきぶん」をつけて「栃木暮らし」の画像を投稿いただく県産品が当たるキャンペーンの実施や、とちぎ未来大使でお笑い芸人として活躍する森三中の大島さんが県内各地の観光や食などをクイズ形式でPRする動画の作成・配信など、SNSやデジタルマーケティングの手法を活用した栃木県の特徴の発信に積極的に取り組んでいます。</p> <p>また、関西圏における県産品の販路拡大や観光誘客等の拠点として、2018年に栃木県大阪センターを開設し、関西圏における栃木県の特徴の発信に取り組んでいるほか、今年10月のいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催は全国から多くの方が訪れる絶好の機会であることから、来県する皆様に様々な場面を通して本県の特徴・実力を体験していただけるよう取り組むこととしています。</p> <p>さらに、本県の特徴・実力を県外の方に知っていただくためには、県民の皆さんが、県に愛着と誇りを持っていただき、魅力を伝えていただくことが重要であることから、ふるさととちぎへの理解を深める学習機会の充実等にも努めて参ります。</p>	<p>総合政策部 デジタル戦略課 (ブランディング推進室) Tel2825</p>
2	観光の振興・PRについて	20	<p>○国内観光客の誘致に力を注ぐ、大都市にはない良さをPRする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知られていない魅力スポット（大谷探掘場、岩舟山の特撮の岩場など）を活用できないか ・1年中来なくなるレジャー施設、映画の撮影地をめぐるバスツアー、県の南北をつなぐ観光プラン、現在のニーズ（コロナや災害等）に合わせた名産品づくり、その場所限定の料理やお土産等づくりを提案する ・駅や高速道路SAでのグルメ宣伝や出張販売、首都圏のアンテナショップを活用した情報発信をする ・栃木県を訪れたいと思うきっかけを増やすために、栃木県のソーシャルメディア公式アカウント等の情報発信の質を上げる（Youtubeを利用して、VR技術を活用した観光地等の360°動画を投稿する等） ・スマートワーケーション推進事業のPRプロモーションビデオの動画広告は非常に先駆的であり、今後は、PR動画を県民から募集するなど、県政と県民が協働できる取組を積極的に講じていけば県全体の発信力の向上に繋がると思う 	<p>県では、観光誘客の促進に向け、市町等と連携しながら魅力ある観光資源の掘り起こしや更なる磨き上げを行うほか、コロナ禍において人気が高まっているアウトドア体験のPR強化や三密を回避した旅行商品造成、ワーケーション等の新たな宿泊モデルの促進等に取り組んでいます。</p> <p>また、栃木県アンテナショップや各種イベント等のリアルとInstagramやYoutube及び昨年12月に全面リニューアルを図った県の公式観光サイト「とちぎ旅ネット」等のデジタルを効果的に組み合わせた観光PRを推進するとともに、今年開設予定であるECサイト「とちぎもの」を効果的に活用した県産品の魅力発信により、その知名度向上と更なる販売拡大を図っていきます。</p> <p>さらに、観光地における移動の利便性向上のため、市町が実施する周遊バスの運行やシェアサイクルの整備等への支援を通じて、本県観光地への誘客促進と滞在客の周遊性の向上を図っていきます。</p>	<p>産業労働観光部 観光交流課 (観光地づくり担当) Tel3210</p>

No.	項目	件数	主な意見・提案	県の取組や考え方	関係課名(担当)
			<ul style="list-style-type: none"> 有名観光地の無料駐車場の数及び収納台数が少ない 観光地へのアクセスの整備が必要(県民が行くことを負担に感じる観光地は県外の人はなおさら足が遠く、県南、県北のアクセス整備など) 		
3	地域づくりについて	16	<p>○人口減少により小さくなった栃木県に住む人々が、暮らしやすい地域をつくっていくことに重きを置くべきだと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町を包含する県の強みを生かして、若者も含めた住民一人ひとりが地域を支えているという意識を高め、地域社会に参加できる機会を増やすべきである 行政と学生とが、定期的に意見交換できる場を設け、学生の意見を取り入れる機会を作ったり、地域のイベントの運営に多くの学生を募ったりするなど、<u>若者が主体的に関わりやすい取り組みを提案する</u> <u>地域を支える若者の育成と定着促進のため、ふるさと学習や伝統文化を学ぶ機会を提供し、それを学校や学区にとらわれないより広い範囲のグループでアウトプットする場を設けるべきである。新しいコミュニティ形成は、地域のつながりを創出し将来的な若者の移住・定住の動機になり得る</u> 「とちぎ高校生地域定着促進モデル事業」の事業展開を伺いたい 宇都宮市以外の市町も活性化させていくとよくなると思う(仁井田駅や宝積寺駅周辺で昭和・平成レトロをテーマにしたまちづくりはどうか、栃木市のアピールポイントを見直す、佐野市に書店を増やして欲しいなど) <u>空き家を活用した地域づくり(商店や高齢者施設への活用等)、シャッター街を活用したまちづくり</u> <u>関係人口と地域住民との関係をより強めていく政策に力を入れていくことで地域の持続性は高まると考える</u> 関係人口は「量よりも質が大切」と考える。少数であっても、一人一人が地域へ大きな役割を果たすことが求められると思う 	<p>人口減少、少子高齢化が進行する中、地域住民が将来にわたり、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするためには、地域課題の解決や多様な地域資源の発見・磨き上げ、地域の自立・活性化を図っていくことが重要です。</p> <p>このため県では、地域内外から人を呼び込み、地域の活力を維持できるようにしていく地域の取組に対し様々な取組を行っています。</p> <p>特に若い世代に向けては、高校生に、地域での課題解決のための取組をとおして地元へ愛着を持ってもらい、進学等で県外に出た後もいずれ地域に戻って活躍してもらえるよう、市や町と協力して高校生の地域活動を支援していく「とちぎ高校生地域定着促進モデル事業」を今年度は県内15市町で実施しています。</p> <p>さらに、地域づくり活動に興味関心をもつ若者等が、年間を通して県内の地域活動の実践者や団体等の活動に集中的に関わる機会を設けることで、その後の継続的な地域づくり活動への参加に繋げていくための地域づくりインターシップも実施しています。(白鷗大からも参加者あり)</p> <p>今後も、皆さんそれぞれが、積極的に地域活動に参画し、是非、未来の栃木を支える人材になっていただきたい。</p>	<p>総合政策部 地域振興課 (地域づくり支援担当) Tel2257</p>
3	公共交通の整備について	16	<p>○交通インフラの整備を進めて欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃木県は交通の便が悪い。車を持たない高校生や大学生の若い世代は、公共交通機関を利用するしかない 電車の本数が少ない(烏山線など)、電車の乗り継ぎがの不便 栃木を南北に横断する宇都宮線は便利だが、東西の電車の利便性に欠けている 電車不便地にバスの本数を増やすべき(宇都宮駅東地区、下野、上三川、壬生、足利、益子、真岡など) LRTの運賃が高いと思う <u>コミュニティバスを増やして欲しい</u> とちぎ創生15戦略の戦略12の地域共助型生活交通システムや交通系ICカードの導入支援について、totra以外の支援が分からない。また、システムを維持する程の利用者を確保出来るのか疑問である 	<p>県内では、運転免許返納者数が増加傾向にあるなど、高齢者をはじめ地域住民の移動手段の確保が求められている一方で、人口減少に伴う公共交通の収支悪化や運転手の不足の問題など、公共交通サービスの確保・充実が課題となっています。</p> <p>こうした課題に対応していくため、県では民間事業者や市町村が運行する路線バスなどへの支援に加え、無人自動運転バスの実証実験、バスロケーションシステムの導入促進、鉄道駅のエレベーター設置、ノンステップバス導入支援など、様々な取組を行っています。</p> <p>公共交通サービスの確保・充実を図るためには、県や市町村、事業者による取組だけでなく、県民一人ひとりの協力によって守り育てていくことが重要であることから、引き続き公共交通に対してご理解・ご利用をお願いいたします。</p>	<p>県土整備部 交通政策課 (公共交通担当) Tel2447</p>

No.	項目	件数	主な意見・提案	県の取組や考え方	関係課名（担当）
5	産業の振興・雇用について	12	<p>○若い世代が栃木で過ごしたいと思える職場を増やして欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の転出を抑制するため、高校生や中学生に<u>地元の企業の魅力</u>を伝える ・場所に制限される働き方は改善されつつある。栃木県の現状からも、企業誘致ではなく<u>創業支援</u>に重点を置くべきである ・「ものづくり」が現代でも戦略産業として扱われているが、旧来型の自動車産業や航空宇宙産業ではなく、<u>次世代産業の創出・育成</u>に総力を尽くすべきだと思う ・これからの社会でもものづくり県として生き残れるのだろうか。過去に囚われすぎない事、インプットを丁寧にする事、変化をし続ける事は必須であり、栃木県に見合った政策で発展していくことに期待する ・中小企業の仕事が遠隔では難しいイメージがある。県労働政策課の「テレワーク実態調査」調査結果からも、テレワークに適した仕事（業務）が少ないことが挙げられており、<u>今後のテレワークの推進が気になった</u> ・「とちぎSDG s 推進企業登録制度」の情報発信の改善を提案する。見る側に伝わりやすい情報発信を行うことで県内のSDG s の浸透や若者が県内企業を知り興味を持つきっかけにもなると考える ・<u>最低賃金を900円台まで上げる</u>てはどうか ・<u>県内の大学に通い、県内に就職した学生に特化した就学支援制度</u>があるとよい 	<p>県では、本県のような業種や職業を紹介する「Be a Tochigist」の動画を高校生に周知するとともに、高校生の保護者を対象に合同企業説明会を開催し、各企業から直接自社の魅力を伝える機会を設け、高校生とともに家族への理解を深めていただくことで、地元への就職を促進しています。</p> <p>また、県内への就職・定着を促進するため、製造業や卸売業・小売業等の対象業種の企業に就職する大学生等に対し、奨学金の返還助成をしています。</p> <p>最低賃金制度については、国の所管であり、県では、関係機関と連携を図りながら制度の周知に努めるとともに、最低賃金の地域間格差解消等に向け、国に働きかけて参ります。</p> <p>創業支援に向けては、新たな活力により県内産業の振興を図るため、大学等の技術シーズを活用したベンチャー企業や、コロナ禍等の社会の変化に伴い、これまでになかった新しいサービスを提供するスタートアップ企業の創出・育成に取り組むなど、創業の準備段階から創業後、経営が軌道に乗るまでを一貫して支援しています。</p> <p>本県の強みであるものづくり産業の更なる発展に向け、優れた技術や産業集積を強みとする「戦略3産業（自動車、航空宇宙、医療福祉機器）」を重点的に支援するとともに、ものづくり企業の成長を加速する「未来3技術（AI・IoT・ロボット、光学、環境・新素材）」の新技術・新製品開発などへの活用を促進し、施策の相乗効果による企業の競争力強化を図っています。</p> <p>さらに、次世代産業の創出に向け、AI等の活用によるイノベーションの創出を促進するほか、カーボンニュートラル実現に向けた新産業分野における革新的な技術の創出・育成を促進するため、県内企業を支援して参ります。</p> <p>また、ウィズコロナへの対応や、多様な働き方の実現に向け、テレワークを導入した企業の事例集を作成するなどテレワークの理解促進に取り組むとともに、専門家を企業へ派遣し、企業の特性に応じた良質なテレワークの導入・定着が図れるよう支援しています。</p> <p>とちぎSDG s 推進企業登録制度については、令和4年1月14日現在で388者1213事業所に登録いただいております。県内企業のSDG s に対する関心の高さを感じています。今後、企業だけでなく県民の皆さまにもわかりやすい情報発信を行い、SDG s への理解を促進するとともに、引き続きSDG s に取り組む企業を支援して参ります。</p>	<p>産業労働観光部 産業政策課 （次世代産業創造室担当） Tel3203 工業振興課 （ものづくり企業支援室） Tel3249 経営支援課 （商業活性化担当） Tel3175 労働政策課 （雇用対策担当） Tel3224</p>

No.	項目	件数	主な意見・提案	県の取組や考え方	関係課名(担当)
6	広聴広報について	11	<p>○若者が県政に関わる機会が少ないように感じる。若者の耳に届くようもっとアピールして欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の能動的な参加は少ないと思うので、<u>若者を巻き込んだ取り組みが必要</u> ・県民からの意見を吸い上げられる仕組みがあれば、もっと県と県民との距離が近くなると思うので、「とちぎ元気フォーラム」のような意見募集を行える場は効果的だと思う ・少子化対策などで実際に制度を利用することになる若者の声が多く反映されていると、自分たちの声を聴いてくれるのかと感じ、良い環境の中で子育てをしたいと思う人が増えると思う ・パブリック・コメントは貴重な住民参画の手段でもあるため、<u>制度の利用についてもう少し普及させてもいいのではないか</u> ・県議会の様子もYouTubeでライブで流すとコメントなどで生の意見が集まるかもしれない ・県政について、県民の認知度、理解度が足りてないように感じるので、もっと<u>積極的な情報発信</u>をして欲しい ・ネットなどで県政の紹介や栃木県のホームページをPRして欲しい ・県庁にはまず、<u>情報発信の質を上げてもらいたい</u> 	<p>県では、県民の方と知事が直接意見交換を行う「とちぎ元気フォーラム」を、地域に直接伺って行うとともに、中高生や大学生の若い世代や様々な分野の方々を対象に実施しています。</p> <p>さらに、メールや手紙でご提案やご意見をいただく「知事にアクセス」、とちぎ未来創造プラン等の主要な計画や方針の作成にあたり、広く意見を求める「パブリックコメント制度」などの広聴事業をはじめ、さまざまな機会を通じて、県民の方からご意見やご要望等をいただいています。また、いただいたご意見等については、制度や県の考え方を説明するとともに、業務の改善や施策の反映につなげています。</p> <p>県政の情報発信については、広報紙「とちぎ県民だより」をはじめ、テレビ、ラジオ、ホームページ、SNS（Twitter、LINE）など各種広報媒体の特性を活かした効果的な広報活動に取り組んでいます。特に、若い世代の方々の情報入手手段は、SNSが主体となっていることから、SNSによる情報発信を更に充実・強化していきます。</p>	<p>県民生活部 広報課 (広聴担当) Tel.2158 (プラザ室) Tel.3765 (広報担当) Tel.2159 (放送担当) Tel.2190</p>
7	移住定住について	10	<p>○ニーズに合った栃木の魅力をアピールする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外から栃木県に移り住んだ友人のほとんどが「思ったよりも住みやすい」と言っていた。栃木県に住んでいる人たちの生活をより便利にすることを優先すべきだと思う ・4月から東京の会社に内定が決まっているが、正直生まれ育った栃木県と小山市から離れたくないし通えるなら通いたい。小山市では首都圏に通う人に対して定期購入費用の一部補償の政策ができたが、県からの補償も出るとより栃木に残る（特に若者）人がいるのではないかと ・<u>経済面でのサポートを手厚くすることが必要だと考える</u>。栃木県に住むことによるメリットがたくさんあればあるほど、栃木県に住みながら都心へ通勤する人が増えたり、栃木県内に就職する人も増えるのではないかと ・若者が定着しやすように、子育てや住みやすさに力を入れる。 ・他県へ向けて栃木県に住むことのイメージを発信し、移住者が増えたらいい ・県が行っている移住定住の取組の<u>情報発信力を高める</u>（インスタグラムで動画投稿やストーリー機能を使った宣伝、実際に定住した人のトークセッションなど） ・関係人口創出の目的は移住定住を促進することではなく、関係人口によって地域の課題を解決させることにあるので、とちぎ創生15戦略の目標は間違っていると思う 	<p>本県への移住・定住の促進に向け、県では、デジタルマーケティングの手法により、移住に関心のある東京圏の若年層にターゲットを絞り、東京圏へのアクセスの良さや良好な生活環境等の情報を効果的に発信しています。</p> <p>また、インスタグラムを活用し、本県での暮らしの風景等を写真や動画で配信し、移住に向けたイメージづくりに取り組んでいるとともに、今後は先輩移住者等から本県での具体的な生活の様子を継続的に発信してもらうこととしています。</p> <p>さらに、移住のための経済的な支援として、移住者に最大100万円を支給する移住支援事業を県内全市町と連携して実施しているほか、移住者の受入体制の強化に向け、県・市町に加え関係団体等も加入した「とちぎUIターン促進協議会」等を通じて、県内の先進的な取組の展開に向け、取り組んでいます。</p> <p>関係人口の創出・拡大については、地域づくり活動の担い手の育成を行うとともに、地域づくり団体への活動支援、中山間地域の地域活動と都市住民とのマッチング等を実施しています。</p> <p>今後とも、若者等のライフスタイルやニーズを的確に捉えた効果的な情報発信や、本県とのつながりづくりの促進等により、地域の活性化や本県への新しいひとの流れの創出に努めて参ります。</p>	<p>総合政策部 地域振興課 (地域振興・移住促進担当) Tel.2233</p>

No.	項目	件数	主な意見・提案	県の取組や考え方	関係課名(担当)
8	県政運営について	7	<p>○優先順位を付けた戦略の展開等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎ未来創造プラン・とちぎ創生15戦略(第2期)全体を通して、戦略の幅が広く目標が達成されるのか疑問に感じたので、優先順位をつけてより絞った戦略をしていくべきだと考える。作って提示するだけでなく、県民に知ってもらうための発信の仕方が必要で、県HPの目立って分かりやすい場所に置くなど工夫が必要だと思う ・政策を行う際は、地元の人々や社会のニーズにあったものかつ、これから先々の自然災害や少子高齢化に向けて積極的で発展的に栃木県が更に盛り上がっていくようなものを常に考えて行って欲しい ・政策を実行する際には、県民へもっと十分に説明がなされるとよい(宇都宮中央女子高の共学化等) ・15戦略は県の政策が分かりにくく、県民の需要とのズレが生じているような印象を受ける。ARやVRを利用しデジタル空間を介して人と繋がるのが可能なメタバースを活用したワークショップや意見交換の場を設けることを提案する。 ・人口減少時代に見合わない、規模の維持・拡大でコストを浪費するよりは、未来のために持続可能な規模を保つうえで、新たにサービスの拡充や県民の暮らしを充足させることを優先させて欲しい ・県政にもうまくマイナンバーカードの活用等デジタル化の要素を取り入れて、仕事も効率化して欲しい 	<p>「とちぎ未来創造プラン」は、県が取り組む施策の進め方等をお示しする県政の基本指針であり、令和3年度からの5年間で重点的に取り組む戦略を5つに絞っており、各戦略のもと、18のプロジェクトを推進することとしています。引き続き、デジタル化の急速な進展や世界的な脱炭素化の動きなど、社会経済情勢の変化に的確かつ柔軟に対応しながら、未来創造プランの着実な推進を図り、未来に誇れる「新しいとちぎ」づくりに取り組んで参ります。</p> <p>また、未来創造プランやとちぎ創生15戦略(第2期)については、県HPに掲載するほか、概要版や県政出前講座等により、広く県民への周知を図っています。さらに、プラン等に沿って推進していく主要な取組についてお知らせするため、毎年度冊子を作成し、あらゆる機会を通じて県民向けに配布しています。今後とも、幅広い世代に県政情報を着実に届けることができるよう、効果的な発信に努めて参ります。</p>	<p>総合政策部 総合政策課 (政策企画・地方創生担当) Tel2206</p>
8	通学路等の整備について	7	<p>○道路の道幅の拡張や片側二車線の道路の増設などが必要だと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の舗装がされずに道がガタガタの場所もあるので、ちゃんと舗装してもらえると安心して走行出来ると思う ・小山市や宇都宮市等へ行く道路が少なく、街中までの道のりで渋滞がよく発生しているので、改善してもらいたい ・栃木県での生活には車が必要不可欠だが、宇都宮駅や小山駅の周辺は、道路の道幅は狭く交通渋滞が多発しているため、道路の道幅の拡張や片側二車線の道路の増設などが必要だと思う <p>○自転車用通路の設置推進と、歩道の拡張をして欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学時に幅が狭く、車がすぐ横を通るような道を多く通るので、ガードレールの設置や、道路幅の見直しなど、車を利用する人も、そうでない人も安心して移動できるようにしてもらえると嬉しい ・大学への通学の際に自転車を利用しているが、自転車が安心して走行できるよう自転車走行用のスペースを増やして欲しい。また、植木が道路にはみ出したりしている場所には、ちゃんと整備するよう注意などをお願いしたい 	<p>県では、渋滞対策として道路の拡幅やバイパスの整備などを進めており、平成24年度からは、例えば交差点を通過するのに最大10分以上かかる箇所などを「主要渋滞箇所」として位置付け、令和7年度までに75箇所の対策を完了させることを目標に、渋滞対策を推進しています。</p> <p>また、歩行者の安全確保を図るため、通学路や小学校から1km圏内の道路で、生活道路又は未就学児の移動経路と重複している箇所を中心に、今後5年間で75kmの歩道整備を推進します。</p> <p>自転車の走行については、新たに道路の整備を行う場合は、原則として、自動車、自転車、歩行者の通行を分離することとしており、また、現状で自転車通行空間が確保されていない箇所については、現在の幅員の中で地域の実情に合わせた自転車通行空間の確保を検討して参ります。</p> <p>引き続き、誰もが安全で快適に道路を通行できるよう取り組んで参ります。</p>	<p>県土整備部 道路整備課 (構造物担当) Tel2414</p>

No.	項目	件数	主な意見・提案	県の取組や考え方	関係課名(担当)
10	交通安全について	5	<p>○交通安全に力を入れて欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外から引っ越してきて、車がすごく多いと感じた。運転が荒いと感じたり、道をゆずってくれなかったりという経験が多々あり、交通事故の多さや県の魅力の低さに繋がっていると思う。また、高齢者が横断歩道のない道路を渡っているのを見てヒヤヒヤする。定期的な運転研修や、信号または横断歩道を増やしたり、歩道が狭く感じるので歩道を少し広くして欲しい ・栃木県の交通マナーが悪いことは他県出身の友人からよく話に聞かし、自分でも感じるので、免許取得時以外にも交通マナーを学ぶ・復習する機会を設けるといいと思う ・自動車と歩行者の事故を減らすため、自動車は歩行者がいたら必ず止まる、小さな横断歩道でも信号機を取り付けるなど歩行者を守れたらいい ・小山駅前がよく猛スピードで走っている車を見かける。人も多し危ないので規制をしっかりとしてほしい ・自転車通学しているが、イヤホンをつけながらの走行、二人以上の並走、右側通行、夜間無灯など自転車の交通マナーが悪い。特に、観覧橋は橋が狭く右側通行を行う人がとても多いので、一定期間、橋の前後に自転車のマナー、特に左側通行の周知の看板を日本語以外の言語も加えて設置して欲しい 	<p>県では、県民の交通マナー向上のため、「マナーアップ！あなたが主役です」をスローガンとして、交通安全教育や各種広報活動等により、交通マナーの向上を図っており、7月の広報啓発キャンペーンでは、ラジオCMやチラシ配付、街頭啓発など様々な広報啓発を集中的に実施して、全ての道路利用者に交通マナーの向上を訴えています。</p> <p>さらに、令和3年12月、自転車の安全な利用を一層推進するため、栃木県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例を制定したところであり、今後も、関係機関等と連携し、様々な機会を捉え、広報啓発を推進し、自転車の法令遵守や自転車の交通マナーの向上に努めて参ります。</p> <p>信号機の設置に関しては、交通の安全と円滑を図ることを目的として、全国統一の基準に基づき、道路環境、隣接する信号との関係、交通量などから個別に設置を検討し、真に必要性の高い場所に信号機を設置しています。</p> <p>信号機の設置が適切でない場所に信号機を増やすと、渋滞の原因となったり信号無視を誘発するおそれもあるため、設置には十分な検討が必要となります。詳細については、栃木県警察ホームページに「信号機設置に関するご案内」を掲載しておりますので、ご覧ください。</p>	<p>県民生活部 くらし安全安心課 (交通安全担当) Tel.2185</p> <p>警察本部 交通規制課 (交通管制センター 企画担当) Tel.028-621-0110 (代表)</p>

※関係課名(担当)欄のTel.番号は、栃木県庁028-623-各課共通(4ケタ番号)を記載しています。

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラムin白鷗大学(意見募集) 実施結果 ※県政への意見・提案を除く

1 実施概要

- (1) 対象者 白鷗大学の学生
- (2) 実施期間 令和3(2021)年11月22日(月)～12月8日(水)
- (3) 実施方法 栃木県電子申請システム(専用フォーム)により募集

2 回答者情報

- (1) 回答者数 134 名

(2) 属性

①男女別内訳

性別	回答数	構成比
男性	65	48.5%
女性	60	44.8%
不明	9	6.7%
合計	134	

②学部／学科別内訳

学部／学科	回答数	構成比
経営学部／経営学科	20	14.9%
法学部／法律学科	107	79.9%
教育学部／発達科学科	7	5.2%
合計	134	

③学年別内訳

学年	回答数	構成比
1年	1	0.7%
2年	35	26.1%
3年	77	57.5%
4年	21	15.7%
合計	134	

④県内外の出身別内訳

県内／外	回答数	構成比
県内	76	56.7%
県外	57	42.5%
不明	1	0.7%
合計	134	

3 入力いただいた内容

- (1) 栃木県のイメージ (自由記述)
- (2) 栃木県の課題 (自由記述)
- (3) 県政への要望 (10項目からの選択)
- (4) 県政への意見・提案 (自由記述) ※P1～P7のとおり

(注)

- (1) 結果に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 割合を百分率(%)で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示。四捨五入の結果、合計が100%にならないことがあります。
- (3) 図表中の語句は、表記を短縮・簡略化している場合があります。

(1) 栃木県のイメージ

栃木県について、あなたが思うイメージはどのようなものですか？(自由記述、複数回答集計)

内容	回答数	構成比
1 農産物(主にいちご)が有名	45	33.6%
2 自然環境に恵まれている	36	26.9%
3 首都圏などへのアクセスが良い	34	25.4%
4 住みやすい・生活環境が良い	32	23.9%
5 餃子や佐野ラーメンなどの食	31	23.1%
6 観光地が豊富	28	20.9%
7 日光東照宮などの歴史文化遺産	23	17.2%
8 魅力度ランキングが低い	18	13.4%
9 災害が少ない	8	6.0%
10 日光が有名	6	4.5%
その他の意見	41	
計	302	

(n = 134)

(以下、属性別上位項目)

【男性】

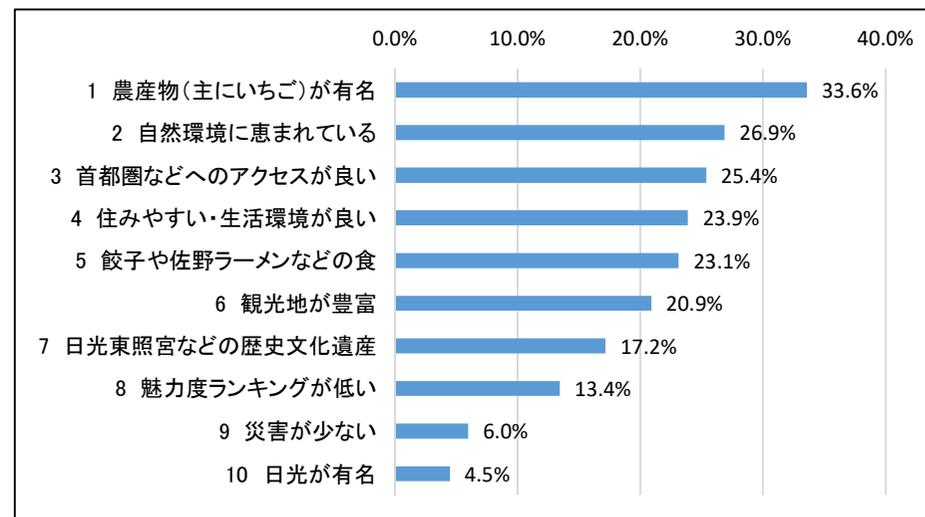
内容	回答数	構成比
1 農産物(主にいちご)が有名	22	33.8%
2 観光地が豊富	15	23.1%
3 餃子や佐野ラーメンなどの食	14	21.5%

(n = 65)

【県内出身者】

内容	回答数	構成比
1 農産物(主にいちご)が有名	25	32.9%
2 住みやすい・生活環境が良い	22	28.9%
3 首都圏などへのアクセスが良い	21	27.6%

(n = 76)



【女性】

内容	回答数	構成比
1 首都圏などへのアクセスが良い	23	38.3%
2 自然環境に恵まれている	19	31.7%
3 農産物(主にいちご)が有名	18	30.0%
3 住みやすい・生活環境が良い	18	30.0%

(n = 60)

【県外出身者】

内容	回答数	構成比
1 農産物(主にいちご)が有名	20	35.1%
2 餃子や佐野ラーメンなどの食	17	29.8%
3 自然環境に恵まれている	16	28.1%

(n = 57)

(2) 栃木県の課題

栃木県のどのようなところが課題だと思いますか？(自由記述、複数意見集計)

内容	回答数	構成比
1 情報発信・広報力が弱い	30	22.4%
1 知名度・魅力度が低い	30	22.4%
3 若者の転出抑制	22	16.4%
4 観光地のPR不足	16	11.9%
5 自動車がないと不便	15	11.2%
6 人口減少への対応	9	6.7%
7 日光、いちご、餃子のイメージが強い	8	6.0%
8 若者向けの遊び場が少ない	5	3.7%
9 交通渋滞の緩和	4	3.0%
10 交通マナーが悪い	3	2.2%
10 道路に危険な場所が多い	3	2.2%
その他の意見	28	
計	173	

(n = 134)

(以下、属性別上位項目)

【男性】

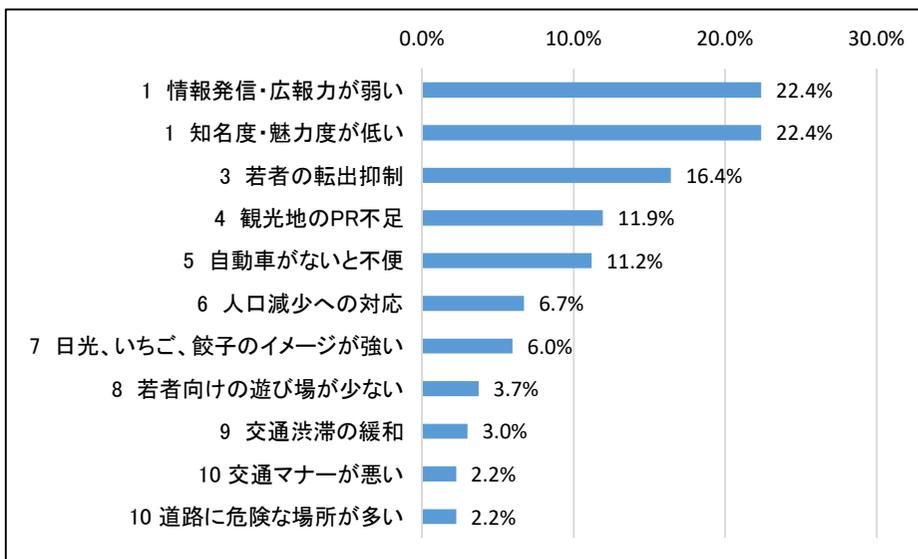
内容	回答数	構成比
1 知名度・魅力度が低い	17	26.2%
2 情報発信・広報力が弱い	15	23.1%
3 観光地のPR不足	7	10.8%
3 自動車がないと不便	7	10.8%

(n = 65)

【県内出身者】

内容	回答数	構成比
1 情報発信・広報力が弱い	17	22.4%
2 知名度・魅力度が低い	16	21.1%
3 若者の転出抑制	13	17.1%

(n = 76)



【女性】

内容	回答数	構成比
1 若者の転出抑制	15	25.0%
2 情報発信・広報力が弱い	14	23.3%
3 知名度・魅力度が低い	11	18.3%

(n = 60)

【県外出身者】

内容	回答数	構成比
1 知名度・魅力度が低い	14	24.6%
2 情報発信・広報力が弱い	13	22.8%
3 若者の転出抑制	9	15.8%

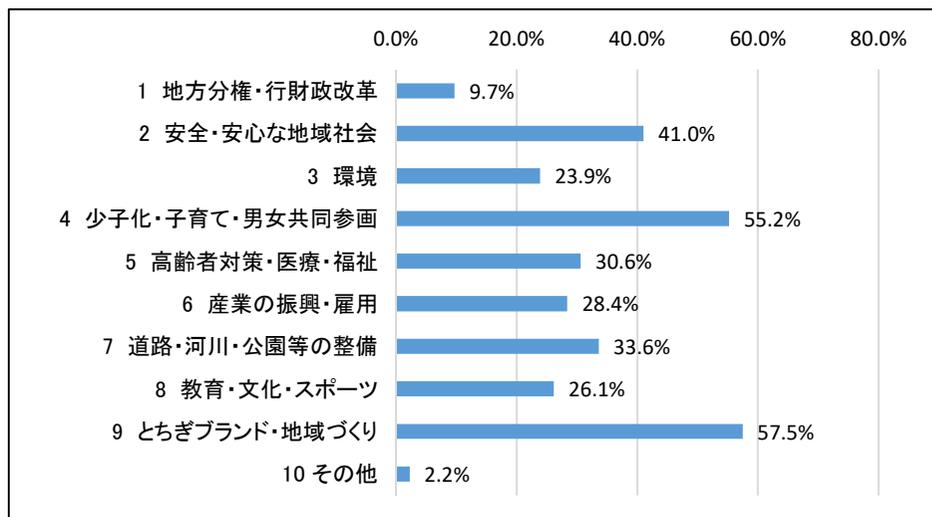
(n = 57)

(3) 県政への要望

県では、皆様のご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な”とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れて欲しい分野について、次の中から選んでください。(複数選択可)

選択項目	回答数	構成比
1 地方分権・行財政改革	13	9.7%
2 安全・安心な地域社会	55	41.0%
3 環境	32	23.9%
4 少子化・子育て・男女共同参画	74	55.2%
5 高齢者対策・医療・福祉	41	30.6%
6 産業の振興・雇用	38	28.4%
7 道路・河川・公園等の整備	45	33.6%
8 教育・文化・スポーツ	35	26.1%
9 とちぎブランド・地域づくり	77	57.5%
10 その他	3	2.2%
計	413	

(n = 134)



(以下、属性別上位項目)

【男性】

内容	回答数	構成比
1 とちぎブランド・地域づくり	34	52.3%
2 安全・安心な地域社会	26	40.0%
3 少子化・子育て・男女共同参画	25	38.5%

(n = 65)

【女性】

内容	回答数	構成比
1 少子化・子育て・男女共同参画	44	73.3%
2 とちぎブランド・地域づくり	38	63.3%
3 安全・安心な地域社会	23	38.3%

(n = 60)

【県内出身者】

内容	回答数	構成比
1 とちぎブランド・地域づくり	49	64.5%
2 少子化・子育て・男女共同参画	43	56.6%
3 産業の振興・雇用	27	35.5%

(n = 76)

【県外出身者】

内容	回答数	構成比
1 少子化・子育て・男女共同参画	30	52.6%
2 安全・安心な地域社会	29	50.9%
3 とちぎブランド・地域づくり	27	47.4%

(n = 57)